



このレポートは、私・和仁が毎月のコンサルティング活動や日常生活を通して気づき、学ばせて頂いたことを書き留めたものです。
お気軽にご笑読頂ければ幸いです。

【今月の気づき】

『何と何を組み合わせれば文化になるか？』



レポートBECCA

以前、あるきっかけでゴルフのグリーンに出る機会がありました。しかし、私はもともと球技が苦手な上にほとんど練習をしていません。前日に少し教えてもらった程度。そのため、そのゲームは周りに迷惑をかけながら肩身の狭い思いをしたものです。その大変な思いをしている一方で、ふと思いました。「このゴルフという遊びは、いつから出来たのだろうか？」「どうやって発展してきたのだろうか？」「行って帰ってきて、3～5万円は掛かるというが、なぜ皆そんなにお金を払うのか？」

そして、気が付きました。これは、決してゴルフそのものに5万円を支払っているわけではない、と。つまり、純粹にゴルフを行なうことに加え、「自然の見晴らしと空気を楽しむ」「カートで移動できる」「ゴルフ後にスパで汗を流す」「食事をしながら一杯飲む」などを全てひっくるめてゴルフだということです。それらが全てパッケージされて「ゴルフ = 5万円」なわけです。

もし食事が出なかったどうでしょう？自然のかけらもないコンクリート・ジャングルの中だったら？汗だくの状態ですhowerを浴びることができなかつたら？どれが欠けていても、価格は大きく下がってしまうことでしょう。

そう考えると、「ゴルフというスポーツ」にこれらの要素を組み合わせると「ゴルフという文化」をつくった人はすごいなあ、と思えてきます。ほかにも似たようなものはいろいろあります。たとえば私が今、習っている社交ダンスのスクールで、年に1回、ダンスパーティーがあります。ここでは、半日を使ってシティホテルで豪華な食事、競技選手のダンスのお披露目、参加者同士のダンスタイムなどが組み合わさって3万円弱の参加料を払います。ホテルで食事をするだけなら1万円もあれば美味しいものをいただけます。すべてが組み合わさって、優雅で非日常なひとときを味わえるから、3万円以上の価値を感じるのです。

何と何を組み合わせると、1 + 1 が3にも4にもなって、人が喜んでお金を払うようなエンターテイメントに昇華されるのか。そして、さらには新しい文化をいかに創り上げるか。今ある文化は過去に誰かがつくってくれたものばかりです。ならば、未来の文化は今の自分がつくれる可能性があるはず。自分の身近な周りのことで、一度考えてみたいものです。

【今月の一冊から】

『考えごとは、紙に書きながら。』

> 心理学者によると、平均的な人間は一日に六万個の思考を頭の中にめぐらせるそうです。
> 残念なことに、この思考の95%はあなたが昨日考えたことと同じことです。そしてその
> 前日に考えたこととも同じです。要するに、あなたの頭の中にめぐっている思考のほとん
> どは、生産性がないおしゃべりで、何の役にも立ちません。もうひとつの問題は、西洋式
> のライフスタイルにありがちの、外から入り続けて来る意味のない刺激です。テレビやラ
> ジオを単に「寂しいから」かけっぱなしにしておいて、中身のない小説を読んだり、意味
> なくネットサーフィンをしたりという人たちは大勢います。<中略>あなたが全く独自の
> 面白いアイデアを出したのは、いつのことでしたか？悲しいことに、大多数の人々が日
> 常の雑念にとらわれて日々を無駄に過ごしています。

(『ガラクタ捨てれば自分が見える』 カレン・キングストン 著
小学館文庫 P.193 より引用)

ちょっと気がかりなことがアタマをよぎることがあります。すると、次第にそのことがアタマの中を占める比重が大きくなる。気がかりなことだから、当然プラスのことではなく、マイナスのことが多いものです。

「あの人に誤解を与えてしまったかも知れない。どう思われているだろう？」
「今月中にやり終えなければならないことが、たくさんあるなあ。本当にやれるのか？」

すると、それが漠然とした不安としてアタマの中をグルグル回ります。このときの私の精神状態は健康的ではありません。そして、この本を読んだとき、気がついたのです。

「アタマの中だけで考えようとするからいけないんだ」と。

アタマの中で考えることは、目で見えません。言葉にもしていません。つまり、目で認識するための時間、言葉におきかえるための時間を必要としない分、「漠然とした不安」がアタマの中を超高速回転でガンガン周り巡っているのです。ならば、どうしたらいいか？そう、紙に書きながら考えればいいのです。

ちょっとした憂鬱感から抜け出したくなったら、躊躇せずに紙とペンを取り出し、今アタマの中で何を思い巡らしているのか、を5分だけ書き出してみる。書く作業によって、アタマの中を駆け巡るスピードが必然的にスローダウンします。そして書いたことを目で見ることで、「ああ、僕はこういうふうに思っているんだ」と客観的にわかるようになります。

「今、僕は何を考えているのか？」を正しく認識する。それをちゃんと認識したときにはじめて、理想の状態に向かってアタマが動き出しはじめるようです。試してみてくださいね。